



拾ったがれきに
 花の絵を描きました
 瓦屋根のかけらが
 小さな花畑になって
 ふわりふわりと
 花びらを散らします
 ここから
 私たちは
 また歩きます
 開いた花が
 勇気になるのです



がれきに花を 咲かせようプロジェクト

銀座展

* 福島県立保原高等学校美術部の取り組み *

2013年2月5日(火)~10日(日) 11:00~18:30(最終日16:00閉場)

銀座アートホール 1階/2階

東京都中央区銀座8-110 銀座コリドー街

03-3571-5170

主催：東京世田谷ロータリークラブ

共催：台北西北区扶輪社・東京麻布ロータリークラブ・東京日野ロータリークラブ・東京府中ロータリークラブ・福島中央ロータリークラブ

後援：福島県立保原高等学校同窓会・福島県・伊達市・福島県教育委員会・伊達市教育委員会・株式会社福島中央テレビ・株式会社福島放送・福島民報社・福島民友新聞社・朝日新聞福島総局

協力：学校法人文化学院 協賛：銀座アートホール



* 展示されている「花がれき」は、
 総量を測定し安全を確認済みです。



がれきに花を咲かせようプロジェクト

銀座展

* 福島県立保原高等学校美術部の取り組み *

2011年3月11日に起きた東日本大震災において、福島県でも多くの被害が出ました。私たちの学校は海から遠く、津波とは無縁でしたが、地震によって校舎の柱や壁などが大きく損壊しました。4月の始業時は至る所に「立入禁止」の表示がなされ、慣れ親しんだ美術室にも、入れなくなりました。

瓦礫にまみれた校舎を目にするのは悲しく、さらに東京電力福島第一原子力発電所の事故が、私たちの辛い気持ちに追い打ちをかけました。けれども震災後、被災各地でたくましい桜の花が咲き、被災者を勇気づけているTV映像を目にしたことをきっかけに「自分たちにも何かできることはないか?」という気持ちが生まれました。

このプロジェクトは、震災で発生した瓦礫に花の絵を描くことで土地の復興と建物の再生を、それを様々な形で伝えることで、人々の心に明るい希望や元気が生まれるように、といった私たちの願いが込められています。またこの活動を通して、日本中・世界中の支援者の方々へ向けて感謝のメッセージを発信することもできるのではないかと考えています。

福島県立保原高等学校美術部



【原発作業員の方へ応援の絵手紙】

2011年5月、福島第一原発で作業する方への応援と感謝の気持ちを込めて、絵手紙を240枚作成しました。完成したものを、5月23日(月)放課後、東京電力(株)福島地域支援室を訪れ室長にお預けし、後日福島第一原子力発電所の吉田所長(当時)に届けられました。12月には震災後の活躍に感謝を込めて、福島県内の全ての消防署・自衛隊にクリスマスカードを送りました。2012年5月には、「福島第一原発作業員のみなさんへ、感謝と応援の絵手紙part2」と題し、作品を東京電力(株)福島地域支援室へ届けました。



【花がれき】

2011年4月より、校舎などの瓦礫に油絵具で花の絵を描いています。*瓦礫は全て顧問が水で洗ってから使用しています。

【校舎解体現場にて】

2012年7月19日(木)、美術室もこの日崩されました。北校舎解体現場から花がれき用の瓦礫を収集し野球部のリヤカーを借りてせっせと倉庫へ運びました。*許可を得ています。



【花がれき壁掛け】

花がれき写真にメッセージを添えた壁掛けを作り、仮設住宅を訪問して届けました。またワークショップを開いて住民の方も一緒に作っていただきました。



【仮設住宅訪問】

これまで5ヶ所の仮設住宅を訪問して、花がれき壁掛けをお渡しし、住民の皆さんのお声を直接お聞きしました。



【仮設に花を咲かせよう!~壁画制作プロジェクト】

訪問活動を通して、住民の方の「家」として大きな役割を担っている仮設住宅は、人の心を温めるものであるべきだと感じさせられました。外観が殺風景に見える仮設住宅の壁に、気持ちが明るくなるような「絵」を描き、住民の方にとってのシンボリックな存在にできないか?との思いでスタートしました。2012年5月4日(土)の宮代第一・第二仮設住宅を皮切りに、4回にわたり全12棟の住宅に絵を描かせていただきました。

